

平成21年度

第3回 気候変動による世界の水資源量変化及び社会的影響検討委員会

- ・ 日時：平成22年3月2日（火）10：00～12：00
- ・ 場所：（財）国土技術研究センター 7階・第3会議室

【 議題について 】

(1) 第2回検討委員会での指摘事項について

- ・ ご意見、ご質問等は、なし

(2) 「シミュレーション結果について」及び「世界の水資源量変化について」

- ・ シミュレーションの中で、世界の国々を【先進国】、【工業国】及び【農業国】の3つに分類しているが、1990年から2050年までの間、移り変わることなく固定している。理想的には、GDPに従って、工業国から先進国に移るような国もあるので、そのような事を踏まえて検討するとよい。
- ・ 利用可能水資源量が直線的に伸びているが、現実的であるのか。
→ 現在のダムの整備ペースで、2050年までダムの建設が続いたとするシナリオを設定しており、そのままのトレンドで伸ばした計算結果です。（事務局）
- ・ 渇水時の出現頻度は、国別にみるとバラツキがあるものの、世界全体では0になっているのはどういうことか。日本やイギリスのような国とアメリカ大陸全体や中国全体では、大分異なると考える。
→ 大きな国の場合、地域偏在が存在するので、本検討モデルでそのような表現ができるように今後の課題として整理させていただきます。（事務局）
- ・ 渇水頻度は、9割以下、8割以下というような表現のみであるが、どの程度の渇水状態がどの程度の頻度で出現する等の表現ができるとよい。
- ・ バングラデシュへ行って現地を見た限り、米の場合は水が足りないというよりも洪水の方が問題だと思う。洪水についてはどう考えているのか。
→ 過去の委員会で議論があった話だと思いますが、洪水によって被害が発生するような状況も念頭に置いてシミュレーションはできないのかというご意見もありましたが、洪水についてはこの計算モデルの中には入っていません。ですから、水が足りなくなる部分について、充足率が低くなる分についてどうかというような計算しかしていないので、洪水被害の方がはるかに大きいと思います。（事務局）
- ・ F A Oの統計データが現状の状態を反映しているとするならば、今回の基本0や基本1等

のシミュレーションのどれが、現実の状態を示すシナリオなのかを評価できるとよい。

- ・ 米の生産量がF A Oの統計データの推移と比べてトレンドの方向は一緒のようだが、年度ごとの山の動きが逆のようなグラフになっているが、どういうことか。
→ 本検討モデルでは、1990年から実際の降雨では無く、気候シナリオを用いた計算上の降雨を使用しているため、F A Oの統計データと異なる場合があると思います。(事務局)
- ・ GDPが増大するシナリオであるのに、水供給が減ってきて生活向上ができないというのはどういうことか。
→ GDPの上がり方は、現況の産業のままGDPが上がるのではなく、現実には産業構造が変わって、一次から二次、三次産業に移り変わるからだと考えます。本検討モデルでそのような表現ができるように今後の課題として整理させていただきます。(事務局)
- ・ GDPと人口の将来予測を基に、水資源がこういう使われ方をしていくので、それに対応するにはダムをつくって提供するのか、あるいはストーリーを大きく変えるためにはこんな方法があるとか、そういう対策を検討できるようになればよい。
- ・ 結果の表現が、絶対値であったり、割合で示していたりしているが、何百トンと絶対値であらわすときは、それが例えば何人分の人口のカロリーだとか、で表現するのであれば非常に有効だと考える。モデルのストーリーラインが違って、ゼロを基本に何割増えたという場合には、絶対値じゃなくて何割増えたと言うほうがわかりやすい。

—以上—